

（仮称）中野区自殺対策計画素案に係る意見交換会結果

1. 実施概要

No.	日 時	会 場	参加人数
1	4月24日（水） 19時～20時30分	中野区役所	7 人
2	4月26日（金） 14時30分～16時	沼袋区民活動センター	6 人
合 計			13 人

2. 意見交換会における意見・質疑の概要と区の見解・回答

【中野区の自殺の現状に関する事項】 （1）件

No.	区民からの意見・要望	区の見解・回答
1	自殺者数が全国・東京都と比べて少ないと表記されているが、中野区は全国・東京都と比べ自殺者数が多いのではないかと。	中野区は全国・東京都と比べると人口規模が小さいため年により増減が大きくなる傾向がある。本計画（素案）における表記の表現方法については検討していく。

【成果目標に関する事項】 （1）件

No.	区民からの意見・要望	区の見解・回答
2	PDCA サイクルとあるが、毎年計画を見直していくのか。	進行管理は、中野区自殺対策審議会において行い、毎年計画の進行管理を行う。

【具体的な取組に関する事項】 （11）件

No.	区民からの意見・要望	区の見解・回答
3	施策が具体的ではない。リーフレット配布では対策として意味がない。	自殺は複数の要因が複合化した時に起こりやすい。自殺に向かおうとするどこかで、何かしらの支援につながる社会づくりが必要と考えるため、リーフレット配布を含めた広い普及啓発も必要な施策であるとする。また、ゲートキーパー研修等も具体的な予防行動につながるように対象となるターゲットを絞り取り組んで行く。

4	命の大切さの教育を教育の場できちんと学年ごとに時間を作り実施して行くべきだと考える。命の大切さを、地域を巻き込んで子ども達に伝えて行く必要がある。	学校では、道徳の授業での指導はもちろん、助産師や犯罪被害者などの外部講師による講演、乳幼児を招いた体験授業など、様々な機会を通して生命を尊重する教育を計画的に推進している。特に乳幼児を招いての体験授業では、学校近隣の乳幼児をもつ地域の方々が積極的に協力してくださっている。
5	ゲートキーパー研修等、区民が参加できる機会があれば素早く情報提供して欲しい。	ホームページ、区報等での情報提供を継続して実施する。
6	中野区がこれだけは実施したいと考える区の特徴があると良い。	従来、区が未着手であった遺された人および支援者との事例検討会を実施することで、個々の事例の原因を確実に振り返っていくことで、次に生かしていく取組を実施する。また、自殺に傾きやすいひきこもり、LGBT等の生きづらさを抱えた人を支援している関係団体をバックアップする体制を整備すると共に、協働して自殺対策を推進していく。さらに、精神科と一般診療科との医療連携を強化することで、一般診療科で発見された未遂者等を精神科や必要な相談機関につないでいくための体制づくりを行っていききたい。
7	ゲートキーパー研修を繰り返し、徹底的に実施してはどうか。	計画策定後には、ゲートキーパー研修は、広く区民に実施するものと、職種を分け、対象を絞って実施するものとを分けて実施していく方針で考えている。
8	図書館は地域の中で孤立している方も多く利用している施設と考えられるため、図書館を利用するの普及啓発をして欲しい。 (例：リーフレットの設置、自殺対策コーナーの設置等)	現在、自殺対策強化月間の際に図書館での企画展を実施している。今後、実施回数・方法について所管課と相談していききたいと考える。
9	在宅療養の場において、介護者の負担は大きい自ら相談機関につながることも困難な現状があるため、訪問介護、訪問看護、訪問診療等の在宅療養に携わる専門職からの発見・つながりが有効だと考える。	本計画（素案）においても、家庭の中に業として入ることができる職種からのつながりは重要と考えているため検討していく。
10	「こころといのちの相談窓口」リーフレットを誰でも見ることができる場所に複数設置することが有効ではないか。	現在、「こころといのちの相談窓口」リーフレットは、自殺対策強化月間時の配布および新成人への配布を実施しているが、設置場所・配布方法に

		についてはさらに検討していく。
11	性別・年代別自殺者数の割合において、男性20～30歳代が突出して多いが、その現状をどのように分析し計画に反映しているのかが見えない。	中野区では20～30歳代の人口比率が高い傾向があるためと考える。しかし、性別・年代別自殺死亡率においても20～30歳代男性は全国に比べ高い傾向があるため、本計画において、若年者対策の推進および勤労者対策の推進として取組の方向性を示している。
12	性別・年代別自殺者数の割合において、男性20～30歳代が突出して多いが、中野区自殺対策審議会においてなぜ労働関係の委員が入っていないのか。	中野区自殺対策審議会には、職業公共安定所にも委員を委嘱している。本計画（素案）において、一部記入漏れがあるため訂正していきたいと考える。また、産業保健センターとの連携も働きかけていきたいと考える。
13	幼少期から日常的に自分が愛されていると思える環境づくりは大切であると考え。街全体・区全体で子どもを守るから、子どもは安心して大人と付き合いなさいと言えるような教育をして欲しい。ごく自然に人とのつながりを感じられる温かい街を作っていくためには、施策ではなく自分ができる人への親切が大事であり、そのような文化を作っていくことが大切であると考え。	人が他者を信頼し、自ら困難に陥った時に周囲に助けを求めることができるようになるためには、ベースとして幼少期からの自己肯定感の涵養が大切となることはご指摘のとおりである。そのため、幼少期からの自己肯定感の涵養の重要性についても伝わりやすいように本計画（素案）に反映していきたいと考える。